

News Letter

2016.01

Vol. 04

Contents

- 新年のご挨拶
- センター開室1周年講演会開催
- 「イクメンパパの会」(仮称)メンバー募集
- インタビュー File 3 荒川光江先生
- インタビュー File 4 加藤佐代さん



新年あけましておめでとうございます。
旧年中は格別なご高配を賜り、まことに有難く厚く御礼申し上げます。
本年も、より一層のご支援を賜りますよう、センター一同心よりお願い申し上げます。



センター長 藤木 稔
副センター長 松浦恵子

開室1周年記念講演会開催

平成27年12月11日（金）、ホルトホール大分の201.202会議室にて、女性医療人キャリア支援センター開室1周年記念講演会を開催しました。

NPO法人ファザーリングジャパン理事で、株式会社ファミリーエ代表の 徳倉康之氏をお迎えし、男性の育児・家事・介護参加の大切さや大変さをご自身の体験を交えながら講演いただきました。

男性の立場からイクメン・イクボスの必要性を語られ、「仕事か家庭か」ではなく「仕事も家庭も」、「仕事×パートナー×子ども」といった欲張りな育キャリアを目指すことが、ワークライフバランスの取れた働き方ができる社会になるとの事でした。



最後に

「父親が変われば、家庭が変わる、地域が変わる、企業が変わる、そして社会が変わる。」

その為の意識改革をしていかないといけないと、徳倉氏の言葉で講演が終了しました。

質疑応答では、周囲の理解をどのように得ていったらよいか、仕事と介護の両立について質問があがり、開室記念に相応しい有意義な時間となりました。

参加者の方のアンケートでは「育児だけでなく、介護、ライフデザインについて考える良いきっかけとなりました」「男とか女とかではなく、どのように共働していくかを考えていくことが大切ではないかと考えました。」というご意見をいただき、皆さん自分の職場や家庭を見つめなおす良い機会になったのではないのでしょうか。

当センターの講演会やセミナーは、小さいお子さんを持つお母さん達にも気軽に参加して欲しいという気持ちで、全ての講演会・セミナーに無料の託児サービスをつけています。今回の講演会には7名のお子さんを託児でお預かりしました。普段ゆっくり講演など聴けないお母さん達にも有意義な時間になったようです。



父親が変われば、
家庭が変わる
地域が変わる、
企業が変わる、
そして、社会が変わる。

 familie Fathering Japan

「イクメンパパの会」(仮称)
メンバー募集!!

女性医療人キャリア支援センターでは、イクメンパパの会(仮称)の会員を募集しております。我こそはイクメンだという方、イクメンに関心のある方、是非メンバーになって一緒に活動しませんか？

入会希望・質問等は、carsupport@oita-u.ac.jp もしくは 097-586-5715までご連絡下さい。



インタビュー

このコーナーでは、大分大学医学部附属病院で働く医療人の方々の声をお届けします。
今回は、子育てと仕事を両立している医師と、
先輩のサポートに力を入れている検査技師さんにお話を伺いました。

消化器内科 医員 荒川 光江 先生

幼稚園に通う3歳の男の子のお子さんを持ち、フルタイムで勤務しておられます。

File 3



両立で大変なことは？

やっぱり子供にかけてあげれる時間が少ないので、子供の教育とか心配な部分はあるが、幸い幼稚園もしっかりしていて本人も頑張ってくれているので、今は子供に勇気づけられている。

フルタイムで復帰した時どうでしたか？

最初は必死で、当時まだ子供も夜泣きをしたりするので身体も大変でしたし、育休を取ったのは半年間ですけど、ちょっといない間に薬とか仕事の仕組みとか変わってたりして最初の1ヵ月くらい落ち着かなかったです。

子育てで工夫していることは？

週末はなるべく一緒にいるようにしています。その為に平日の間に週末にしなければいけないことを計画しておく。家に帰ったら子供のことを考えるようにしている。
本当に仕事をしている男の先生たちは家に帰っても仕事のことをされているので、そこで差がつくのだろうなとかは思うのですが、子供を育てるのには必要な時間。家と病院で割り切っています。

◆メッセージ◆

どうしても色々な方の支えが必要になるので、将来自分が支える決心をすれば、色々な支えをもらいながら、自分の思うような医師像に近づけるんじゃないか。
自分も母や先輩後輩からも支えてもらっている。自分もお返しできるように頑張らないといけないし、逆に自分が支えられるところは支えていくし、甘えすぎないように、支えられていることを自覚してなくてはならない。感謝の気持ちを忘れないようにすることが大事だと思います。

将来イメージするなりたい医師像は？今後のキャリアアップは？

まだ色々ブレたりしています。色々な患者さんを診たりする度に私はどっちに行くだろうとまだ迷い中です。
どちらかと言うと技術職なので、技術はもうすこし身につけたい。そのために診療に関わっていくのがひとつかなと。本当は学会とかも頑張らないといけないのですが、どちらかといえば治療で貢献していきたいなど。
女性の仕事って家庭の環境に左右されるので、専門医とかって動かない証拠ですから、そういうのは早目にとっておいた方がいいと思います。維持も点数をとって更新をしていかないといけないので、そういうこともキャリアアップだと思います。

医療技術部 臨床検査技師 加藤 佐代さん

仕事もプライベートも充実！

File 4



この職業に就いたきっかけは？

高校生の時に医療の分野で医師や看護師以外に、臨床検査技師という仕事があると知り興味を持った。それからずっとその道。

仕事とプライベートのワークライフバランスで工夫していることはありますか？

切り替え。
平日は帰るのが遅いし、なかなか自分の時間がないが、
休日は完全に切り替えるようにしている。そうする事でリフレッシュ出来ます。

今後のキャリアアップについてはどのように考えておられますか？

後身の育成。(今までやってきた事をまとめようと思っています)

休日どのように過ごしていますか？

ガーデニングにはまっています。若い頃はランニングなどもしていました。

育休から復帰してきた同僚や、子育て中の同僚をどう思いますか？

応援していきたいし、フォローしていきたい。
昔は子供が産まれたら仕事を辞めていたが、今は辞めないでいいと思います。
子育ても大事だが、仕事をやりたい気持ちもあると思うので是非頑張りたい。

◆メッセージ◆

職場は皆で理解し合って、弱い(苦手な)所を補い合って良い職場にしないとイケないと思っている。
色々な人がいて1つの職場だと思います。
つらい事があっても希望の持てるような場所に出来ると良いですね。

